

## シンポジウム開催によせて AIBot 研究センター主任岡田教授よりコメント

### 【シンポジウム テーマの背景】

脳科学や AI の急速な発展により、感情や意識など従来は科学の対象とは考えられなかったテーマがその範疇になり、様々な成果が出始めています。そして、人がなぜ絵画や音楽に感動するのか、といった内的心象がメカニズム脳科学の対象になりつつあります。

玉川大学は、脳科学研究所において音楽や絵画の鑑賞プロセスにおける脳活動に関する研究を続けてきました。また、芸術学部においては音楽、絵画、パフォーマンスといった幅広い分野における芸術教育を精力的に行っています。そのような脳研究と芸術活動を結びつけ、新しい分野を切り開くのに玉川大学は最適な場所だと感じています。

AIBot 研究センターは人と「技術」の協調を大きなテーマに掲げ、2017年4月に設立されました。人工知能が社会に広く普及するであろう時代を迎え、人工知能やロボットが人間の仕事を奪う、ロボットが戦争を起こすなどといった不安を抱かせるような報道があります。技術は本来、人々の生活を豊かにし、幸せに溢れる社会を創るために存在するはずで

そのような時代において、私たちは芸術という人間にとって最も重要な知的活動を脳科学や AI、ロボット研究といった最先端の科学研究と結び付け、我々の生活を豊かに楽しくする人工知能研究を推進していきたいと思っています。

### 【シンポジウムのポイント】

今回のキックオフシンポジウムでは世界初の試みとして、映像と音楽のコラボレーションによる“新しい芸術表現”をご覧ください。私たちが目指すのは AI が芸術を創造することではありません。AI が音楽を作曲し、演奏し、芸術家が必要なくなるということは考えられません。AI と芸術の融合による“新しい芸術表現の可能性”を探っていきたくと思っています。皆さんのお馴染みの曲が、映像とのコラボレーションでどのように変化するかをお楽しみください。このシンポジウムを通し、これまで何気なく聞いていた曲も、映像との組み合わせで新たな価値を生み出す可能性があることを知っていただきたいと思います。



岡田浩之（おかだ ひろゆき）  
玉川大学学術研究所  
先端知能・ロボット研究センター（AIBot 研究センター）主任

赤ちゃんとロボットを使ってヒトの認知過程の発達メカニズムの解明を目指した、認知発達ロボティクスの研究に従事。赤ちゃんの言語獲得からロボットビジョンまで幅広い興味を持つ。赤ちゃん研究とロボット、一見関係ないこの二つを繋ぐ、しなやかな知性の仕組みを知ることが目標。2008年、2010年ロボカップ世界大会@ホームリーグ優勝。著書に「なるほど！赤ちゃん学：ここまでわかった赤ちゃんの不思議」（新潮社）、「新・人が学ぶということー認知学習論からの視点」（北樹出版）、「脳科学からうまれた あなぼこえほん」（ポプラ社）等

以上